

第42回特別展解説書

よみがえる

ワカヤマ ウリュウ

2024

和歌山県立自然博物館

ティラノサウルスなどの恐竜が陸上で繁栄していた中生代白亜紀後期、海の中で王者として君臨していたのがモササウルス類です。二〇〇六年、そんなモササウルス類の一種と考えられる化石が有田川町の鳥屋城山で発見され、数年後の発掘調査で全身骨格が掘り出されました。その後の研究で、この化石は新しいタイプのモササウルス類であることが判明し、新属新種としてメガプテリギウス・ワカヤマエンスと命名された論文が二〇二三年一月に公開されました。そこで当館は、今後みなさんに広く親しみを持っていただく意味を込めて、本種の通称を「ワカヤマソウリュウ（和歌山滄竜）」として発表しました。

ワカヤマソウリュウは他のモササウルス類にはないユニークな特徴をたくさん持っており、世界的に見ても非常に重要な存在です。本特別展はワカヤマソウリュウの何がすごいのか、どんな姿をしていたのか、など最新情報を紹介するものですが、この展示解説書ではそれに加えて鳥屋城山から産出した主な化石についても紹介します。太古の和歌山の海に思いを馳せていただければ幸いです。



鳥屋城山の位置



地質年代表 * 国際年代層序表 (v.2023/9) などを参考に作製

はじめに.....1

モササウルス類とは?.....3

モササウルス化石発掘物語(漫画 関口太郎).....5

鳥屋城山での発見.....17

発掘調査で新たな化石が続々と.....18

化石のクリーニング.....19

ついに化石の全貌が明らかに!.....21

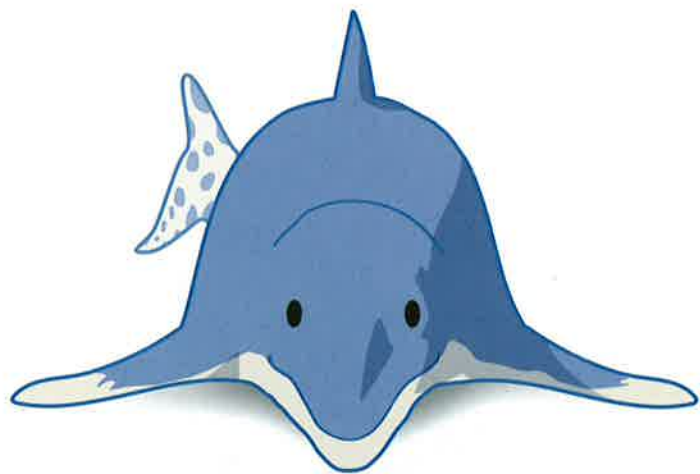
いろんなモササウルス類と比べてみよう!.....25

よみがえるワカヤマソウリュウ!.....27

産状レプリカからわかること.....29

おまけ 鳥屋城山の化石図鑑.....32

おわりに.....38



モササウルス類とは？

モササウルス類は水生爬虫類の仲間で、
 竜とも呼ばれます。約九八〇〇万年前に出現
 し、白亜紀後期の海で繁栄しました。左図に
 示すようにモササウルス類は恐竜ではありません。
 せん。また姿や生活スタイルが似ている魚竜
 とも異なる生物です。現代の生きもので言え
 ばオオトカゲやヘビに近い仲間で、ヒレ状に

進化した脚とサメのような尾ビレを持って
 いました。その化石は世界中から発見され
 ていて、三〇属八〇種以上が確認されてい
 ます。魚などを捕食するほか、ときには小
 型の首長竜やウミガメを襲うこともあった
 ようです。なかには体長一〇メートルを超
 える大型のものもいて、海の王者として君
 臨していましたが、約六六〇〇万年前に恐
 竜（鳥類以外）と共に絶滅し、現在ではそ
 の姿を見ることはできません。



爬虫類の分岐図 * Andrzej et al.(2023), Reeder et al.(2015)などを参考に作製

オオトカゲ類(クロホソオオトカゲ)
 頭骨模型



魚竜(バプタノドン属の一種)
 頭骨模型



モササウルス類は魚竜と体形がよく似ていますが、頭骨を見比べると
 特徴がまったく異なり、むしろオオトカゲ類に似ていることがよくわかります。

モササウルス類(ティロサウルス属の一種)
 頭骨模型



モササウルス類が
 オオトカゲ類とヘビ類の
 どちらに近いのかは諸説あつて、
 今のところまだよく
 わかっていません。



